

## 褥瘡・皮膚・創傷管理委員会

褥瘡・皮膚・創傷管理委員会委員長 赤松 順

### 委員会活動目標

当委員会は 2008 年度に発足し、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、事務、秘書などの多職種で、3 つのワーキンググループ（以下 WG）（Ⅰ.褥瘡対策 WG Ⅱ.創傷ケア WG Ⅲ.ストーマ・排泄ケア WG）で行なわれる Total Quality Control 活動を支援し、教育・啓蒙活動など近森会グループ全体のスキンケアレベル向上、病院全体での標準化による安全性の向上や適切なコスト管理を目標に活動しておりましたが、今年度は 3 つの WG の活動を統合し、褥瘡対策 WOC（創傷・オストミー・排泄ケア）WG として効率的な委員会活動を展開しました。

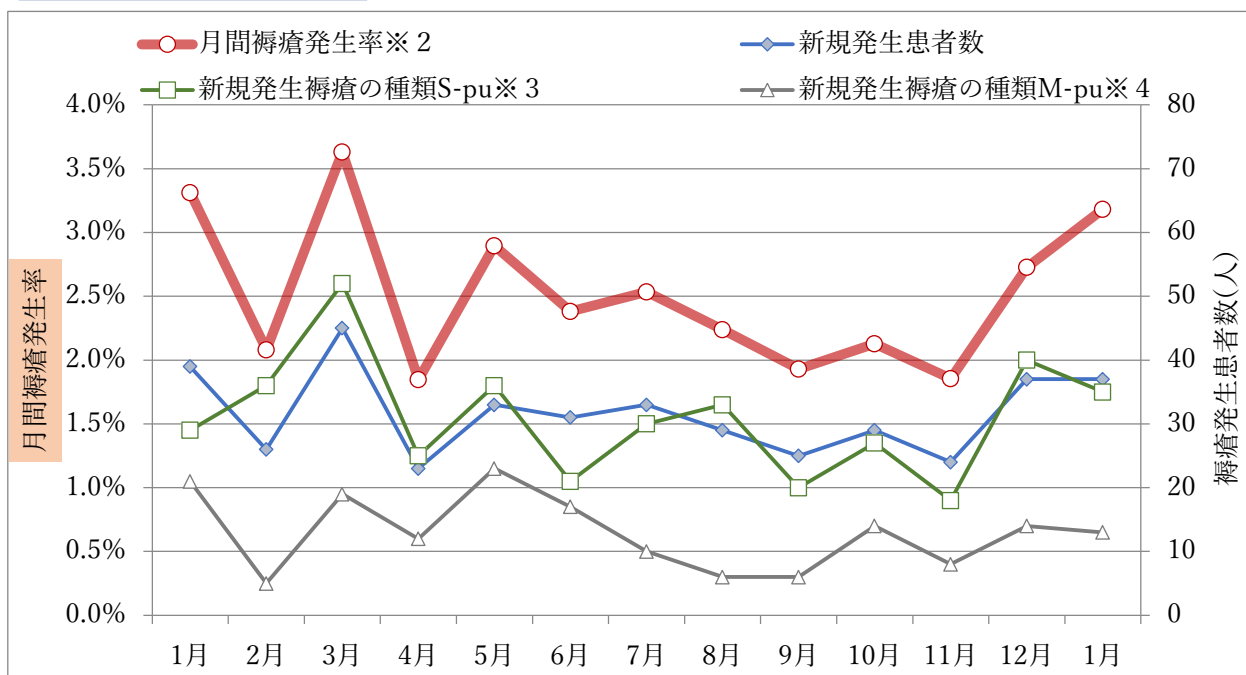
### 委員会組織

メンバーを集約化した褥瘡対策 WOC（創傷・オストミー・排泄ケア）WG が、褥瘡対策チームを兼ねて月 1 回第 4 金曜日 13：30～14：30 に褥瘡対策委員会を開催致し、褥瘡対策の中核を成し、皮膚損傷に拘わる課題や問題点について、リンクナースとともに、教育、啓蒙、分析、対策実施を行いました。代表者会として、褥瘡・皮膚・創傷管理委員会を隔月開催しました。

### 褥瘡・創傷・皮膚管理委員会

WG の統合に伴い、必要性の低下した活動プロセスチャートは廃止しました。委員交代による活動の中断を避ける必要性はありますので、5 月をスタート月にして半年ごとに小さい区切りとして前期 5～10 月活動期、後期 11～4 月活動完成期、次期への課題申し送りとして、前年度後期の実績および今年度前期、後期の 1 年半を意識した運営を心掛けました。本委員会は、TQC 活動により、特に質の向上を目指して活動していますので、アウトカム表示が難しい面がありますが、アウトカムを意識した委員会活動が病院全体の目標となっており、さらに検討予定です。

図 1 褥瘡発生月間推移



1年間の褥瘡発生月間推移のグラフを示します(図1)。5月より発生件数が減少傾向となり、12月から冬場に増加する傾向があります。季節的に重症者が増加し、リスク患者率は単純平均で2%程度上昇する傾向があります。委員交代に伴う、意識モチベーション(褥瘡に対する問題意識、褥瘡発生に対する危機意識、褥瘡予防、治療担当である意識)の変化についての考慮の必要性も示唆されます。褥瘡対策 WOC(創傷・オストミー・排泄ケア)WGよりの定期報告で、褥瘡対策診療計画書累計表より新規入院に対するリスク患者は32~37.1%、月間褥瘡発生率は1.8~3.6%で3%を超える月が2回、2%を切る月が2回ありました。推定褥瘡発生率は1.4~3.4%(全国平均1.2%)と昨年度より高めに推移しました。褥瘡リスクアセスメント件数は568件、褥瘡予防治療計画件数は356件で、約63%のハイリスク加算オーダー率でした。

本年度委員会では、『医師と看護師、多職種との連携』を課題として取り上げました。現状は、電子カルテ上のレゴ型情報共有ですが、定められた場所に記録記載したことで満足し、その情報が十分に生かされない場合も多く、皮膚軟部組織トラブル情報は、電子カルテに記録されることが優先され、多職種への広報や利用法についての方略が弱い点が指摘されます。その点を補完する目的で、WOC情報管理システム(WOC information management system)・WOCIMS(仮称)の構築について、検討致しました。必要情報内容の精緻化、電子カルテ上での入力表示方法などが、提示・検討され、付箋・ボードを使用したシステムが、コストメリット・情報提示の利便性などに優れることが示唆されました。さらに、報告する内容の重み付けによる取捨選択の優位性も想像されることから、WOC情報の意義付けを加味したWOCインフォーム・レベル(仮称)を検討・創設で、より簡便に、わかりやすく情報共有できる可能性が示唆され、次年度の課題として検討予定で、早期の実践配備を目指す予定です。

## 次年度に向けた活動

褥瘡対策 WOC(創傷・オストミー・排泄ケア)WG活動の更なる充実と皮膚軟部組織トラブルの減少を目指した教育・啓蒙活動を行う。

今年度は、ガイドラインで取り上げられた、深部組織損傷褥瘡(Deep Tissue Injury)や、臨界的定着(Critical colonization)に、呼応して臨牀的に現状に即するように、褥瘡状態評価スケールが、改定DESIGN-R®2020として上梓されています。今後、段階的に移行が望ましいと考えられるので、新規症例より徐々に移行する形を検討する必要があります。

### 褥瘡対策 WOC(創傷・オストミー・排泄ケア)WG (記:安松 WOCNS.)

褥瘡予防対策への取り組みをより充実させるために、昨年度からの活動目標を継続し『褥瘡の予防的ケアを実践する』という年間活動目標を掲げて活動しました。コロナ禍のため、『褥瘡・創傷・スキンケアセミナー』などの集合研修の代わりに、新人Ns、褥瘡リンクNsを中心に、S-queのe-Learningの褥瘡・スキンケアに関する研修の受講を促し、また、各部署の褥瘡リンクNsを中心に部署の状況に応じた内容のミニ勉強会を実施し、ケアの質向上に努めました。

スタッフの意識・技術の向上に繋がるように、毎月『WOC ケア通信』を発行続行し、褥瘡の発生部位の表記方法や褥瘡・スキン・ケア・IADの鑑別を分かりやすく解説し、また、実際に発生した褥瘡症例を用いて振り返りを行い、リスクアセスメントに基づく褥瘡予防ケアや褥瘡発生の原因、今後必要なケアなどを考え意見を共有した。創部だけでなく、患者の全体像を見て原因を考えることの重要性を伝えました。

創傷関連ではスキン・ケア対応マニュアルの一部改訂を行いました。点滴漏れ対応マニュアルは初版から5年以上が経過しており採用薬剤にも変更があるため現在改訂作業中です。

ストーマ管理に対しては、関連部署を中心として勉強会やカンファレンスを行いストーマケアに対する知識・技術の向上に努めています。